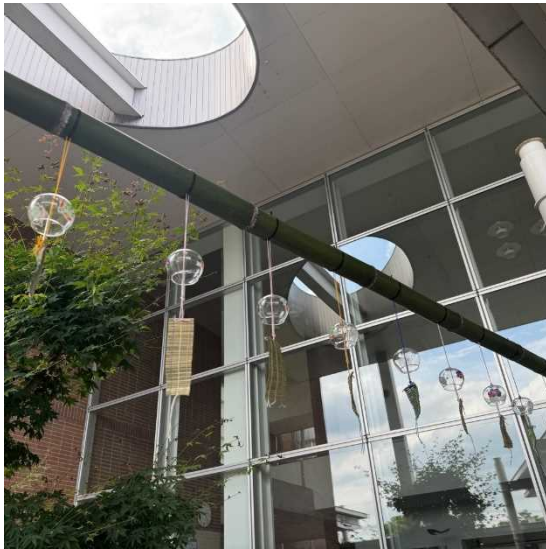


【本町初】「^{とふ}十符の^{すがこも}菅薦」が揺れる風鈴を
利府町役場（正面玄関）に設置します



- 開催日時：令和6年7月5日（金曜日）から7月中旬までを予定
- 開催場所：利府町役場 正面玄関（利府町利府字新並松4番地）
- 主 催：利府町
- 協力者：利府町芸術文化協会、地域おこし協力隊
- 内 容：

昨年までも風鈴は設置していましたが、今年は短冊の代わりに「十符の菅薦」を用いた新たな風鈴を設置します。来庁される皆様にさわやかな香りと涼を感じていただきながら、町名の由来になったといわれる「十符の菅薦」を身近に感じてもらい、平安時代から伝わる本町の歴史を知る機会として取組むものです。報道機関の皆さまにおかれましては、設置の様子をぜひ取材いただきますようお願いいたします。

「十符の菅薦」とは

利府町菅谷から仙台市岩切にかけての沢辺一帯はかつて良質な菅草の産地でした。その菅草を乾燥させて編み上げた「薦」（敷物）の網目が十筋あることから、「十符」と呼ばれ、完成した「薦」は「十符の菅薦」と呼ばれました。（詳細は別紙をご確認ください）

- その他：取材いただける場合は、事前に文化振興・リフノス係まで御連絡ください。

平安時代から鎌倉時代にかけて和歌にも詠まれた…

と ふ す が こ も 十符の菅薦



利府町は「十符の^{と ふ}里^{さと}」をシンボルネームとして使用しています。これは「十符の^{と ふ}菅薦^{すがこも}」に由来します。

利府町菅谷から仙台市岩切にかけての沢辺一帯はかつて良質な^{すげくさ}菅草の産地でした。その菅草を乾燥させて編み上げた「薦」の網目が十筋あることから、「十符」と呼ばれ、完成した「薦」は「十符の^{と ふ}菅薦^{すがこも}」と呼ばれました。

この「十符の菅薦」は、生活用品としてしばしば都^{みやこ}に献上^{けんじょう}されていたようです。これが都の人々や歌人の目に触れ、平安時代後期から鎌倉時代にかけて和歌や旅日記に「とふ」という言葉が用いられるようになったようです。

鎌倉時代の歌集『夫木和歌抄』に次のような歌が残されています。

みちのくの十符の菅薦 七符には君をねさせて われ三符にねむ

この「十符の菅薦」の原料となった菅草の産地であったことから、平安時代から鎌倉時代にかけてこの辺り一帯は「十符」と呼ばれていたようです。

「十符の菅薦」については、松尾芭蕉の『奥の細道』にも記されています。「宮城野」から「壺の碑」へのくだりに、次のような記述があります。

画図にまかせてたどり行けば、おくの細道の山際に十符の菅あり。今も年々十符の菅薦を調へて国守に献ずといへり

訳) 絵図をたよりに行くと、「奥の細道」と呼ばれている道の山沿いに、歌枕の「十符の菅」があった。今でも、毎年「十符の菅薦」を編んで藩主に献上しているという。

歌枕で有名な「十符の菅薦」の産地に芭蕉も興味を抱き、訪れたものと思われます。

利府町教育委員会

宮城県宮城郡利府町利府字新並松4番地（教育部生涯学習課文化振興・リフノス係）

TEL：022-767-2197 / FAX：022-767-2108